

平成29年

豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員会

4月19日

豊明市議会

豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員会
会議録

平成29年4月19日

午前10時00分 開会

午前11時53分 閉会

1. 出席委員

委員長	杉浦光男	副委員長	村山金敏
委員	富永秀一	委員	郷右近修
委員	清水義昭	委員	鵜飼貞雄
委員	近藤裕英	委員	蟹井智行
委員	後藤学	委員	宮本英彦
委員	ふじえ真理子	委員	毛受明宏
委員	近藤郁子	委員	近藤千鶴
委員	早川直彦	委員	山盛さちえ
委員	近藤善人	委員	三浦桂司
委員	一色美智子		

2. 欠席委員

委員 月岡修一

3. 職務のため出席した議会事務局職員の職、氏名

議会事務局長	石川晃二	議事課長	鈴木美智雄
議事担当係長	水野美樹	議事課主事	荻正幸

4. 説明のため出席した者の職、氏名

なし

5. 傍聴者

一般傍聴者 4名

午前10時開会

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 定刻に御出席いただきまして、ありがとうございます。

定足数に達しておりますので、ただいまから豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員会を開会いたします。

なお、議長はきょう、公務のため欠席であります。

本日の傍聴については、申し合わせに従い15名以内とし、委員長において一般傍聴者の入室を許可いたします。

（一般傍聴者4名入室）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 本日の傍聴については申し合わせに従い15名以内として、委員長において一般傍聴者の入室を許可します。

これより本日の会議を開きます。

本日の議事につきましては、お手元に配付いたしました議題に従い会議を進めます。

1番、議員定数・報酬の増減におけるメリット・デメリットについてを議題といたします。

さきの特別委員会で、議員定数の増の場合、現状維持の場合、削減の場合について、メリット、デメリットを出していただきました。また、同様に報酬についても出していただきました。その内容を正副委員長で取りまとめをいたしました。ここで朗読をもって報告といたします。

それでは、朗読をいたします。

議員数と報酬のメリット、デメリットについての発言要旨。

議員定数を増員、現状維持、削減した場合のメリットとデメリットについて。

定数増の場合のメリット。多様な人が議員になるチャンスがふえ、多様な考え方、意見を議会に反映できる。各委員会の定数を7名以上確保できる。2増にすれば議長が委員会に所属しなくてもよくなる。市民との接触が多様となり市民の意見を聴取しやすくなる。行政を監視する目がふえ、議員提案もふえる可能性がある。議員不在の区が少しでも減る可能性がある。

デメリット。議会費が増額する。議員一人一人の責任が曖昧になる。議会の独善という批判を受ける。議会の中での合意形成に時間がかかる。

現状維持の場合のメリット。市民の声を多様に反映できている。現在はうまくいっている。大きな変更がなく現状の形態を続けられる。議会の能力の変化や比較をしやすい。定数削減を求める市民の評価を得られる。

デメリット。議会は改革をしていないと評価を受ける。議会の活動が活発になると作業量がふえる。

定数減の場合のメリット。財政負担が軽減する。発言等責任が明確になる。議員の活動状況を市民が監視できる。削減した報酬を市民サービスに回すことができる。定数削減を求める市民の評価を得られる。

デメリット。3委員会定数の現状維持ができない。市民の少数意見が反映されにくくなる。多様性が減る。立候補ができにくくなる。組織がないと新人は立候補しにくくなる。ハードルが上がる。区長等の意見を反映するには地域には一定の議員が必要。一人一人の意見が大きくなる。個々の権限が大きくなる。

続いて、報酬を増額、現状維持、削減した場合のメリットとデメリットについて報告します。

報酬増の場合のメリット。若者が参画しやすい。多様な議員がふえる。政策立案等につながる。

デメリット。市の負担が重くなる。独善的と批判を受ける。報酬を目的にする立候補者が出てくるのでは。議員を続けることが目的になる。

現状維持の場合のメリット。大きな変更が必要ない。市民の理解を得られやすい。報酬審議会の提案に従えば特に議員が考える必要がない。

デメリット。議会が変化したとの印象を与えられない。金額で現状維持になると人事院勧告も否決せざるを得ない。

報酬減の場合のメリット。財政の負担が軽減する。議会費を現状程度に考えると議員増につながる。志の強い人が立候補する。

デメリット。有能な人の参画がしにくくなる。議会のアマチュア化や深い調査ができない。経済的な問題から不正を働く可能性がある。モチベーションが下がる。多様な人が議員になるチャンスが減る。意見を反映させたり、チェックする議会の力が落ちる可能性がある。資金力がないと議員になりにくくなる。

ここで朗読の報告を終わります。

ここままで何か意見のある方、挙手を願います。

早川委員。

○早川直彦委員 議員数と報酬のメリットとデメリットのところ、多分間違いじゃないかなと思うんですが、現状維持の場合のメリットのところ、定数削減を求める市民の評価を得られるって、これは間違いじゃないですか、ここだけは。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） どこだった。

○早川直彦委員 現状維持の場合のメリットのところ、これ、間違いじゃないですか。下ですよね、これ。この現状維持に入っているのは、ここは間違いじゃないですかね。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 定数削減を求める市民の評価が得られるというのが間違いで、そうすると、どこにこれが行くという……。

（入っているの声あり）

○早川直彦委員 定数減の前のメリットが正しくて、現状維持のところ、間違いですね。これ、削除ですね、この部分。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 現状維持の場合のメリットのところ、定数削減を求める市民の評価が得られるというのは、これ、間違いということで、御異議ありませんか。

（異議なしの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） これ、削除いたします。ありがとうございました。

そのほか、ございませんか。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 御異議なしと認めます。このまとめたものについて、委員会等資料とすることに御異議ありませんか。

（異議なしの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 御異議なしと認めます。よって、資料ナンバー8といたします。

それでは、次に行きます。

それぞれのメリット、デメリットも整理できました。以上で議題の1を終わりにして、続いて、2番目、今後の予定についてを議題といたします。

さきの委員会で配付いたしました資料ナンバー1、一番最初の資料です。ナンバー1です。それを見ていただきたいというふうに思います。

御用意できたでしょうか。

資料ナンバー1、議員定数・報酬検討の進め方についてをごらんください。

①豊明市のこれまでの経緯や他市の状況等について学習する。これは、資料ナンバー2から資料ナンバー7までで学習したことと思います。②市民参加の前に議員間で討議をし論点整理などを行う。先ほど取りまとめをしましたメリット、デメリットで完了したことと思います。

御異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 次に、③市民も含め議会制民主主義の在り方について学習する、ここに入っていきます。

今後、この特別委員会を進めるに当たりまして、7項目が挙げられております。黒ぼちよで7つありますが、ごらんいただきたいと思います。

朗読していきます。

1つ、市民も含めの意味をどのように捉えるかまず考える。

1つ、議会と議員の存在意義と役割について学習し、定数、報酬のあり方について議論する。

1つ、市行政や議会の現状を市民にもよく理解してもらう。

1つ、講演会等の開催、その後に市民と意見交換会。

1つ、市民アンケート。

1つ、特別委員会で広聴会。

1つ、市民討議会。多くの市民の中からランダムに参加者を決め議論する。

以上、7項目であります。

この7項目については、まず自分たちで勉強し、市民に現状等を理解してもらい、その後に意見交換を実施するという流れになっています。今後の進め方についての御意見を、皆さんにお聞きしたいと思います。

御意見のある方、挙手願います。

富永委員。

○富永秀一委員 協議会の内容も多少含めながら、ただ市民の皆さん、今回が、その間の経緯というのは全く御存じない状態だというふうに考えるので、それを補足しつつというお話になると思いますが、学習をするためにはやはり、一定数メディアにも露出しているような、客観的に、ああ、この方の発言であれば評価できると、そういうふうに見られている著名な方々のお話を伺って参考にするべきではないかということで、またほかの議員の皆さんにも意見を求めて、何人かの候補を出したわけですけど、その中で比較的、この方の話を聞きたいという意見が多かった北川正恭氏と江藤俊昭氏の出演といたしますか、講演を開こうという形で、スケジュールを確認をしたり、あと出演料について確認をしました。

ちなみにこの後の議論の中で、協議会では実際に、具体的な金額も申し上げましたが、やはり配慮いただいている金額ということもありますので、今後の議論の中で、具体的な金額、特に個々の具体的な金額は出さずにお話をいただきたいということはちょっとお願

いしておきます。

そのスケジュールも確認をし、出演料についても確認をし、では、どのような形でお呼びしましょうかという議論になりました。その場合に、2つ方法が挙げられました。

1つは、補正予算を組んで実施をするという方法、これは、一番最初にこの特別委員会を設置するときに、予算をどうしますかという話をしたわけですが、そのときにまだ、講演会を開くとか視察に行くとか何かが具体的に決まっているわけではないので、その時点で当初予算として一定額をもうあらかじめ決めておくのは適切ではないのではないかとこの話があって、金額がある程度固まったところで必要な分を補正で組んでいきましょうということになったということもありますので、まずはその補正予算を組むという方法。

もう一つが、ただその補正予算を組むとなると日程的にかなり厳しいということもあって、政務活動費でやってもいいのではないかとこの意見が出ました。

その2つの意見が出たということで、では、具体的にどうやろうかというところで、意見の一致が見られないままここに来ているというところでは。

ここまでの現状の報告なんですけども、その後、我が会派でも手分けをして、政務活動費で著名人を呼んで実施をした例があるのかなのかというのを、ちょっと確認をしてみました。

具体的には、10の市議会で確認をしてみました。

1つが小田原市議会で、ここは北川正恭氏を呼んでいます。確認をすると、これは当初予算でした。それから、総社市議会、こちらは片山善博氏を呼んでいます。こちらも当初予算でした。牛久市議会、江藤俊昭氏を呼んでいます。当初予算でした。瑞穂町議会、北川正恭氏、当初予算でした。可児市議会、江藤俊昭氏、当初予算でした。流山市議会、北川正恭氏、当初予算でした。芽室町議会、江藤俊昭氏、当初予算でした。久慈市議会、北川正恭氏、ここだけは市の予算なんですけど、国の雇用対策についての予算があってそれを使ったということなので、純粹には一応市の予算という形にはなってますけど、もとを正せば国の予算ということになります。瑞穂市議会、江藤俊昭氏、当初予算。大町市議会、江藤俊昭氏、当初予算ということで、政務活動費で行ったというところはありませんでした。

逆に、じゃ、政務活動費で何らかの形で講演会をやった例はないのかということで、著名人からという形ではなくて、逆に調べていってみました。そうすると、伊那市議会が、ある会派がまちづくりに関する講演、先着150名無料という形でやった例がありました。これは、政務活動費を活用した新たな取り組みとして開催しますという形でした。

これ以外はなかなかなくて、あったのが静岡県議会が、県議個人が漫才師を呼んで、だ

からもう全く県政とは関係がない形で漫才師を呼んで、それが問題になりました。要するに全く関係がない著名人を呼んで、それはもう売名行為じゃないかということで、これ、政務活動費でしかも出していたもんですから、そんな支出の仕方はおかしいだろうということで、これは新聞に書かれたりということもあって、かなり問題になりました。

それから桑名市議会、こちらは会派で、これもある著名な方なんですけど、これは市政とは全く関係のない講演会で、そこには市長も招いて、その会派の市議が並んで挨拶をし、また市長の激励もありみたいな形で、これはやっぱり政治活動だろうということで、これもまた内容も全く関係がなかったこと、また、その議員が目立つような演出があったということもあって、これもまた問題になりました。

かなり探したんですが、政務活動費で講演会を行ったという例はこの3つしか、私はちょっと見つけることができなかつたんですね。ということもあるので、やはり政務活動費ではなく、予算を組んでやるべきではないかなと。これまでも、豊明市議会単独で講師を呼んでという形ではやってないですけども、他市との合同という形でやってる場合には、当然、その市の予算から出ているわけですし、ただ、補正予算を組むべきだとは思いますが、なかなか、そうすると日程的に無理がくるというところは、それは配慮すべきところはあるかもしれないと思いますが、こういった著名人をお呼びして勉強するというものは、やはり予算を組んでやるべきだろうというふうに考えております。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 今、富永委員の発言は、協議会でやった政務活動費や当初予算等のあり方、そういうことですね。その辺を中心に、協議会でいろんな僕たちが考えてきたこと、話し合ってきたことの復習のような形で発言をしていただいたということですが、ほかにございませんか、御意見。

近藤裕英委員。

○近藤裕英委員 これ、今、7つの項目の中で意見を求められると思うんですけど、今の富永委員の発言で言うと、まずその講演会のスタンスを決めないと、ほかの項目にもかかわってくるような気がするんですが、そこに特化して議論をしてくださいということであれば、皆さん意見が出しやすいと思いますけど。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 今、裕英委員のほうから指摘がありましたが、この7項目については少なくとも自分たちで勉強し、現状を十分理解していくということが大前提でありますけど、今までの協議会でも十分に話し合ってきたのは、富永委員が言った講演会等の問題でしたね。

ですので、これ、全部7項目が非常にかかわりを持ってるとということで、裕英委員が言ったようにかかわりを持ってますので、それじゃ、この講演会と口火を切っていただいた

富永委員、それから、今、裕英委員から言われたことを中心に、講演会等の開催、その後市民との意見交換会というこの4つ目の黒ぼちよを中心に少し議論をしていきたいというふうに思います。よろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) じゃ、御意見のある方。裕英委員。

○近藤裕英委員 先般、協議会で私、政務活動費ということで発言しました。まず前提としては、全員が同意しないとまずスタートラインに着かないと。問題になるならないというところは、いろんな当局側、いわゆる選挙管理委員会、それから警察でいうと捜査二課知能犯係がどういう判断をするかですが、まずそのスタートラインに着く前に、先般後藤さんの意見もお聞きすると、政務活動費というのは反対だということであるので、政務活動費での全員が同調してスタートラインに着くことはできないということだと思っておりま

す、今。
では、補正を組んでという、当初予算があればまた別のところではありますが、現状今の段階で、補正でしかスタートラインに着けないということを見ると、2点理由があって、まずスケジュール的に後ろへ後ろへ行ってしまうということと、私は個人的にはやっぱり、新年度がスタートして、補正を市のほうに働きかけることについては反対です。先般の協議会で申し上げた理由で、政務活動費でもできるということで私は発言したので、補正を組んでの講演会には反対ということになります。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) その賛成、反対という御意見も含めて、ちょっと中に入ってきましたが、そのほか、ございませんか。

後藤委員。

○後藤 学委員 前回の協議会で、政務活動費でやることについて私は反対だというふうに言いました。ただ、その後、私が賛成すれば済むことなのでということでいろいろ考えたんですね。何とか賛成しようかと思って考えたんですけども、どうしてもひっかかるので、実は県の選挙管理委員会に、政務活動費を使ってやることについてどうかというお話をお伺いしました。こちらの現状を説明して、豊明市の議会で定数や報酬のあり方を今検討していると、その中で、学識者を呼んで講演会を開いたらどうかという話が出たと、ただ、急いでというか、スケジュール的なことがあるので政務活動費でやったらどうかというような意見が出ておって、ちょっと疑問に思っているの確認をしたいというような現状説明をした上でお話をお伺いしましたら、県の選挙管理委員会の安永さんという方です

けども、選管の話として出してもらってもいいということでしたので、あえてこの場で申し上げますけれども、その講演会は市民も参加して聞いていただくというふうに説明をいたしました。そうしましたら、例えば、演歌歌手を呼んでそれを市民にも聞いてもらうというような催し物と、内容は大変公的なものでいいんだけど、本質的には同じことになるので、公選法に抵触する疑義があるというお話でした。

先ほども言いましたように、県選管の公式な見解としてそういうふうだということを経験の場で述べてもらっても結構ですというふうに言われましたので、私としては、疑義があると言われてるものを議会全体でやるというのはちょっとどうかなということで、賛成しようかなと思ってはいたんですけども、ちょっと気持ちが賛成ということには固まり切れないということですけども、そういうことがあったということをお報告しておきたいと思えます。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 今の問題、繰り返しますと、議会の公式の場で発言してもいいということで、県の選管の見解として、政務活動費を使って講演会等というのはちょっと法律に抵触する部分があるよという。だから、言うなれば……。

（疑義があるというぐらいの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） だめじゃなくてクエスチョンということは、そういう発言だったと思いますが、そのことも含めて。

三浦委員、お願いします。

○三浦桂司委員 今、兩名の方、富永委員入れたら3名ですけども、著名な人を呼んで、政務活動費で講師を呼ぶというのは、全国的に見ても極端に少ないというのは、非常にグレーな部分が残るということであって、やっぱり選管としては、絶対、先ほど来出ておりますけども、どんなことを聞いたとしても、白か黒かは言いません。取り締まるのはやはり警察ですので。スケジュール的にいろいろありますけども、政務活動費を使わないということは、使えないということで一回、こちらのほうは話をまとめてもらって、あとはもう一方、残ったほうで議論していただきたいと思えますが、どうでしょうか。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 今、政務活動費と当初予算なり補正予算、そういう問題が出ておりますが、政務活動費については、もうこの議論にのせないということによろしいでしょうか。

（異議なしの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それでは、政務活動費を除いて、ほかの方法等についてのお話をしたいと思えます。

御意見のある方、お願いします。

富永委員。

○富永秀一委員 この委員会が始まる時に、スピード感を持ってというか、タイムスケジュールとしてどこまでに何をするという、結論をいつまでに出すかという議論が最初ありました。

私は、年度末までに結論を出せばいいという意見だったわけですけど、その時点で私が思い描いていたスケジュールというのは、大体6月ぐらいまでに講師を選んで、9月で補正を組んで、実施は秋ぐらいに行って、年度末までに結論を出すという、そういうスケジュールを自分の頭の中で描いていたので、そういうスケジュールであれば、今からでも9月に向けて補正を組むということであれば、問題なくできるのかなというふうに思っております。ただ、年度末では遅いと、年内にということであれば、秋に実施をして、とりあえず、この専門家の知見を得るとするのは非常に大きいことなので、それさえ終わってしまえば、あとは頑張れば年末までにとか、多少こぼれても年明けすぐにぐらいで結論を出すことは無理なことではないかなというふうには思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほか、どうでしょう。

近藤裕英委員。

○近藤裕英委員 私も、スケジュールとしては皆さんの意見が、1年半前もしくは1年前ぐらいを目安にということ議論したのを覚えております。特に富永議員にいろいろ御足労というか、準備していただいて恐縮なんですけど、例えば宮本さんが意見として言われた、こういうことはみんなの総意じゃないとやるのには難しいんじゃないのという意見、今はどういう意見かちょっとわかりません。私はそれも、私も同じ思いでいますので、先ほど申し上げたように、当初予算でもないところで議員が自分たちで補正を組んでやるということにはやっぱり同意できないので、その意義はできればやったほうがいいのかと思うんですが、スケジュール的なことと補正を組むということ2点を理由に、私はこの講演会については賛同できません。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 宮本委員。

○宮本英彦委員 基本的にはやはり、この種の問題は全会一致で確認をして進めるべきものだろうというふうには思います。

今、講演会のところで意見がというか、講演会を主体で議論してるんですけど、私が思うのは、今この時期になって、今後のスケジュール、この7つの項目上がってるんですけど、要するにフィニッシュをどこに持っていくのか、今、富永委員の自分なりのスケ

ジュール感ということで発表されたんですけれど、やっぱりこの全体の、この中でスケジュール感をまず一致をさせて、それに向けて、そのスケジュールに向けて、いつ何をやるかというこの段取りを決めていかないと、一個一個、その全体のスケジュール感がない中で、一つ一つを議論していたらずーっと後ろへ行ってっちゃう、ずれ込む可能性がありますので、そういう点でちょっと、講演会はやり方でいろいろ議論ありますので、まずそういう全体のスケジュール感をどうするかというところで一致をさせて、これまでに、じゃ、決めましょうと、皆さんで。それが決まったら、じゃ、それまでに何をやるかという具体的なこの7つ、みんなやるのかどうか、いや、このスケジュール感ならこれとこれとこれはやろうよと、だけどこれはもうちょっと無理だねと、こういう取舍選択をきちっとやるべき時期かなというふうには思います。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 今、スケジュールの問題が出てきましたが、スケジュールの問題は今ここで提示されてないし、十分その問題について協議会でもちょっと話し合っていないので、今、講演会の問題が出ましたので、スケジュールとは非常に関連を持ってくる問題ですけども、ある程度このところに着目して、その予算との絡みである程度結論を導きたいというふうに思います。よろしいでしょうか。

（異議なしの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほか、ありませんか。たくさんの方に発言していただきたいので。

富永委員。

○富永秀一委員 私もやはり議会のできるだけ多く、可能ならば全員の意見が一致して、講演を実施するというふうになるのが理想だろうというふうに思っております。

現時点で考えると、一応候補として6月、7月、8月でスケジュールも確認をさせていただいているんですけれども、現時点でまとまっていないので、この6月、7月、8月に關してはもうスケジュールも解除して、ここでは行わないというところまででいいのではないかと。とりあえず、例えば9月に向けてもうちょっと議論を重ねて練っていくということをするべきではないかなというふうに思います。とりあえずきょうの特別委員会では、とりあえず6月、7月、8月については断念するというところまででいいのではないかなというふうに思います。6月、7月、8月の講演の開催は……。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） はい。

（発言する者あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ごめんなさいね。指名し

てからよろしく申し上げます。

講演会の開催については、今、富永委員は、6、7、8はいろんな物理的に難しいので、開催するとかしないという議論については、9月以降の問題で考えていったらどうだということですが、その前提として、いろんなその講演会等について、予算の組み方について、いろんな意見があると思いますので、たくさんの方に発言していただきたい。

近藤郁子委員。

○近藤郁子委員 予算の組み方は、今お話の中であったように、政務活動費はNGにしましょうかというようなことだろうと思います。それで結局、補正を組んだりしてやっていくんですが、今、その6月、7月、8月に必ずスケジュールを入れるということも、まず解除していただかないと難しいということもありますけれども、ただ、その内容的なことを、この講演会をどういうスタンスで議会が開くかということに関して、例えばこのちょっとなかなか、どういうふうによくこの特別委員会を進めていくかということにもかかわってくるかなと思うんですけど、きょうそれこそ最終確認された、そのメリット、デメリットについても、これは議員がそれぞれ言った要旨、発言の要旨であって、発言されたことが全部載っているということで、これに対しても、別にこの中で議員でその議論を交わしたわけでもないし、ただ、そういう状態の中で講演会をやるというふうにしても、いや、これは単純に市民と同じ立場で、同じように講演会を聞いてそれで市民の意見を聞いて、それから議員が決めるというような形でしかなくて、もう少し自分たちもこういうふうに思っているけれども、それでまた講演会も聞き、市民にも意見を聞いて、最終的に、例えば特別委員会として結論を出すときにというふうに持っていても、何ら不思議ではないような私は気がする。というのは、講演会をどういうスタンスで市民に聞いていただく、どういうふうにこれを議会として皆さんが同じ感覚で講演会を開くかということが決まっていんじゃないかと、それは済みません、私だけなのか皆さんもそうなのかわかりませんが、私はそういうふうに思えて仕方がないので、もう少し、今まで特別委員会やってまいりましたけれども、この発言の要旨を皆さんが口々に並べただけにしかまだなっていないと、そういう状態の中で講演会って、どういうふうに受けとめて皆さんにお越しいただいて、私たちが何を勉強していくのかというところを、もう少し皆さんと協議をした上でもいいんじゃないかなというふうに思います。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 宮本委員。

○宮本英彦委員 今の発言も、いわゆる全体というか、その進め方の1つなんですよね。講演会の前にきちっとそのスタンスなりを議論をしてこうじゃないかというふうに私は感

じたんですけれど、そういうことからいくと、進め方の1つだと思うんですよ。

私が先ほど言ったのは、全体のスケジュール感をまず決めて一致させて、何をやるか、この時期に何をやるか、そのやる内容によって、予算というのは講演会だけじゃないんですよ。まだ市民アンケートをやろうとしたらお金かかるし、広聴会やろうとしてもかかるし、市民討論会やろうとしても、お金がかかるんです。これだけ予算、1つだけ予算をとったって意味がないですから、全体のスケジュール感をまず決めて、この時期に何をやるか、その予算が幾らかかるかなど、そういうことを含めて全て予算化を、補正予算を出すならその予算化をしないと、一個一個補正予算なんていうのはそんなのナンセンス。

ですから、私は先ほど言ったように、どういう進め方をまず議論するかということ、いつをフィニッシュにしてということなどをまずこの中で一致させるのが、一番先にやるべきことじゃないかなというふうに思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） いろんな意見がございませうが、皆さん、一回は発言するぐらい発言してくださいよ。

山盛委員。

○山盛さちえ委員 全体のスケジュールについては、随分前の協議会で、定例議会が何月にあって、その間で例えば子ども議会をやるとか、それから議会のその報告会のちょっとバージョンを変えた形で意見交換会をするとか、既に決まっている日程も含めた形で、ぱくっとした改革の会が考えるスケジュールみたいなものを御提示したことがあるんですけども、それがそのままになってしまっていたということで、もう一回それもテーブルに上げて、もともととして考えていただいてもいいのかなというのが1つ。

それからもう一つ。今も言われたように、他にも予算がかかるものがあるので、予算を、議員定数・報酬に議会が予算要望することがよくないという考え方なのか、この講演会についてのみ補正予算がよくないというのか、そこら辺のところも、裕英議員のお考えもよくわからないわけですけども、何かしら、宮本議員が言われるようにお金は必要なので、そこをよしとするのかどうかのその確認だけでもとっておかないと前に進められないというふうに1つは思います。

その中で、私は、定数・報酬もちろんですし、議会がこれからいろいろ調査だとか、監視機能だとか政策提言だとか、いろんな意味で議会がしっかり機能していくためには、何らかの議員報酬、議会費の中に、報酬以外のところでも予算が発生することはあるだろうというふうに思っていますし、そういう柔軟に活動できる議会になっていくことが議会改革だろうというふうに思いますので、議会が予算要望することを極端に遠慮するとか、よくないことだというふうに考えるのはそれは違うだろうというふうに思っていますの

で、その辺のまず合意形成というか、協議もひとつ必要ではないかということで、2点お願いします。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員）　ほかの人もどんどん発言してください。

裕英委員。

○近藤裕英委員　今、山盛委員の私に対する御質問だと思うんですけど、補正の云々というのは、あくまでも全員の同意、総意であれば問題ないと考えております。だから、私は、講演会についての、結構な額になるところを補正で上げるのは、講演会に対しては同意はできませんという意見を申し上げました。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員）　三浦委員。

○三浦桂司委員　この特別委員会は豊明市議員定数・報酬検討特別委員会ですので、余り話を広げ過ぎると、あれもこれもというと、今、山盛さんの補正の話なんですけども、この点に絞らないとまずいという考えだと思いますけど。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員）　山盛委員。

○山盛さちえ委員　私が申し上げたのは、例えばこういったことにも、今後、ことしじゃなくて、来年とか再来年とか来期とか、いろんなことで議会にいろいろ活動費が必要だろうということをちょっと申し上げただけで、ここで今回、それまで含めて考えようということではありませんので、補足をしておきます。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員）　多くの人に発言していただきたいので。

郷右近委員。

○郷右近　修委員　まずその費用、予算と今のその講演会などに関するところでは、やはり特別委員会に正式にして、その委員会で正式な、その最終的に判断をするための材料にするということだと思っているので、そこに当初予算であっても、あと補正の予算であっても、予算要求をして、必要な費用をかけて取り組んでいくということは構わないというか、普通の取り組み方としていいのではないかなというふうに思います。

その上で、この講演会に限らず、少なくとも年度内に想定される、その他のアンケートであるとか討論会であるとかというふうなところまでも踏まえた上で議論するべきでないかというふうなことに關しては、確かにそういう考えもあるなというふうに思うので、そのスケジュールに關する議論に關しては、ぜひしたほうがいいんじゃないかなとは思いますが。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員）　今発言していただきたい

ろんな着眼点というか、着目しておるところがいろいろちょっとあって、まとめるのも大変ですが、もう二、三方発言してください。

鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 私の考えとしては、基本的に宮本委員がおっしゃったのに同意するところが多くて、結局、着地点がいつになるかということを決めない限り、これ、分科会も立ち上がって、もうちょっとしたら1年になるわけですね。その割には全然進んでないという印象が僕、強いんですよ。全然前に進んでない、1年もたってるのに。そうすると、このまんま同じやり方していくと、いつまでたっても結論出ないじゃないのかなと。

なので、逆説的に考えても、先ほど宮本委員がおっしゃったように、どこで終結させるかというのをまず決める。それで、そこのスケジュールの間にやれることをピックアップしていく、そうしないことには多分、ずーっと同じことを繰り返すのかなというふうに思います。というのは、結局、結論が出るのが先送りになっちゃうだけで、なので、ここにも基本方針にもありますけど、スピード感を持って進める、こういったものもありますけども、私はそもそもスケジュールを全体のスケジュールを先に決めて、それに向けてまとめていったほうが一番早いのではないかなというふうに思っております。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 早川議員。

○早川直彦委員 改革の会は最低でも、子ども議会をやったりとか広く聴く会をやったりすると、最低でもここまでかかりますよ。12月の、あれでも、すごく簡素化したものでも、12月のタイムスケジュールでつくりました。やはり、例えば講演会やりましょうといっても、じゃ、講演会の中身は何なんだろうという部分でぼやけてて、短い時間の中でそれだけの費用対効果があるのというところで、多分どうしようという部分も皆さんあると思うんですよね。例えば、その賛成の意見の人と反対の意見の人で公述人を呼んで、それでかんかんがくがく話を聞いて議員同士も質疑をしてというなら、これは理解はできると思うんですよね。ここでやりますもんね。当然、傍聴は可ですので、市民の方も当然聞くことはできるわけですね。

具体的にやはり何をやるか、だから、これをやるからこういう成果があるんだという成果物が出ないと、その辺をやっぱりもう決めないと、これいつまでたっても、何やろう、これやろうという話になりますので、これはやっぱり、こういうタイムスケジュールでやりましょうという案を誰かが、委員長、副委員長だと思うんですけど、こういうタイムスケジュールでやって、こういう案をつくれたけど、これでどうしようというのを決めない限り、延々と同じことが繰り返されると思うんですが。私だけじゃないと思うんですよね、こういうふうに思ってるの。この辺、ちょっと諮っていただけるでしょうか。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 裕英委員。

○近藤裕英委員 私も全く同じ意見です。

じゃ、いつで閉めるかというところは、皆さん個々に意見を持っていたとしても、それは根拠がないことなんです。根拠を示せと言われると困るんですが、いずれにしても、前も議論が出ましたけれど、次の選挙に出馬を検討される人たち、現役じゃない人たちにとって、そんな1年前にぼんと決められてもというところもあると思うんです。どんなにハードルが高かろうが、低いということはないんですが、高かろうが、そういう意思があれば立候補はされると思うんですけれど、ある程度の目安として、1年とか1年半という議論が出たと思うんですが、1年半だともう9月なんですね。今から9月というのはとても無理だと思います。1年前というのは、その今後準備される方にとっては、もうぎりぎりだと思うんですね。

だから、根拠はそういう根拠でいうと、やっぱり12月、今年度中にいう、とりあえずそこを決めて、じゃ、そこに対するスケジュールを、あとは早川さんと同じ意見ですけど、スケジュールを誰かが指針として出していただいて、何か目安がないと検討しにくいので、そういうことで、だからいわゆるそういうのを踏まえて、決を、きょう、今決めるのか、次回に委員長案として出してもらうのか、どちらかで進めていかないと進まないかなと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 進行上、私の意見じゃありません、意見ではなくて、進行上ちょっとまとめますと、最初のうちは、この7つの項目は全部リンクしておるわけですね。リンクしておって、少なくとも自分たちが勉強する、その勉強したことを市民に還元する、そういう1つの流れなんですよ。これはみんなで確認したこと、私の意見じゃありませんよ。そこでいって、過去の協議会で何を中心にやってきたかという、講演会をどうすると、講演会は少なくとも講演会を開いて勉強しようじゃないかという意見、いろいろ、それじゃ、予算をどうするんだというような意見を中心に、数時間使って議論してきました。それらを中心の課題で1つ来た。

それからきょう、多くの方から出ておるタイムスケジュールの問題、前からもちょこちょこ出ておりましたが、タイムスケジュールの問題ね。だから、タイムスケジュールは、確かに言われるように、ここまで来ると、最後のリミットをどこにするかということはやっぱり決めないと、この会を運営することはできませんので、それはもう、きょう決めるのか、それともこの次の協議会で決めるのかというのは別問題にして、もう決めると。タイムスケジュールは皆さんで決めていただくと、これが1つと、私がこの会の進行をやっておる関係で、もう一つはやっぱり、この7項目全部リンクしておるけど、講演会を中心

にやってきたので、講演会をどうするかということを引きょう決着していただきたいというふうに思いますが、その2点、私の申し上げるのは、この会の進行上で講演会についてどうするかこれを決着する、予算との絡みも含めて。それからもう一つは、タイムスケジュールの問題、この2点をきょうちょっと結論を出していただければ、きょうの委員会は成功じゃないかと思いますが、いかがでしょうか。

○近藤郁子委員 今、なぜ決まらないかということ、そのスケジュールが決定していないので決まらないということなので、きょうスケジュールを決めるまで皆さんが、午後もかかっても、時間をかけてでもやるというんだったら、講演会をするかどうかは決まるんじゃないかと思いますがけれども。今、講演会だけ決めて、スケジュールは後ほどというんだったら、また同じ、もとのもくあみになってしまうのではないかと思いますけど。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 清水委員。

○清水義昭委員 僕も今、過去のやつ、ちょっと見てたんですけど、28年の11月のこの協議会のときに、6月議会で条例改正案を提出したいというメモがあるんです。今話題になっていた、その今年度中とかことし中というのがどこら辺から出てきたのか、ちょっと記憶になくて申しわけないんですが、ということを見ると、6月は、今考えると非常に厳しいというのはよくわかる。そうすると、僕が考えると、9月くらいに何とか改正を出せないかなというふうには思ったんです。そうすると、スケジュールを、もちろん皆さんおっしゃられているとおおり、スケジュールを組んでいかないかと。そうすると、さっきも話が出たんですけど、今、項目に上がっている中で取捨選択をやっぱりしていかないかと思うんですよね。

なので、お尻を9月なり12月、いろんな意見が出てますけど、どこに持っていくかというのをやっぱり先に決めないと、どういうことをこれからやっていくのかということが決まらないと思うので、それを先にちょっとやったほうがいいのかというような感じを受けています。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 ちょっと僕の頭の中の記憶を出しているんですけど、6月というのは、恐らく副委員長が発言されたことだと思います。12月というのは、市政改革の会さんが出していたスケジュール案、そのときにでも、12月でも遅いんじゃないかという言葉もありましたけども、もう今、ここの時点で4月なので、もう現実的には12月を目指してというふうに私は思っております。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 山盛委員。

○山盛さちえ委員 12月をお尻、条例改正案を出すということをお尻にすると、少なくと

もパブリックコメントをやらなきゃいけないだろうということになると、その時期、期間が1カ月、短くても3週間ぐらいを見ようと思うと、11月には決定していないといけない。11月に決定しようと思うと、その前に中身を議論しないといけない。その議論するに当たっては、議会だけで決めるのではなくて、今回は、どういう形にせよ市民の意見も聞いて、市民とある程度合意形成をした上でまとめようというのが柱にあるものですから、その期間がまた必要になってくる。その市民との合意形成や情報共有を、講演会ですかアンケートなのか、広聴会なのか討論会なのか、どれも市民の皆さんと意見交換をするとか、そういうのが目的にあるわけですから、改革の会が出したたしかスケジュールの中では、講演会と意見交換会的なものだけで、アンケートとかは多分無理だろうということで、入れていなかったと思います。さらに、市民との聞く会でしたっけ、その部分で、全てじゃなくていいんですが、少し時間をとって、その議員の報酬や定数について参加者から意見を聞いたり、アンケートをとったり、そういった機会もうまく利用していかないと多分間に合わないというようなイメージでつくったと思います。

なので、ほかの委員さんも言われているとおり、市民と意見を交換する、あるいは市民の意見を吸い上げる方法をちょっと絞っておかないと、あとはスケジュールをつくることももう既に無理だろうというふうに思いますけど、そのところを、少なくともきょう行っておいたらいかがでしょう。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） いろいろ意見いただきましたが、ちょうどになりましたので、暫時休憩……。

最後、1つ聞いて。

富永委員。

○富永秀一委員 今回、いろんな講演、講師を選ぶに当たって、実にさまざまな意見を見て、また選んで10人に絞ったわけですが、その過程で見て、今までの豊明市議会の状態は、ほかのもの、外部の知見を見ると、かなり真空パックのような状態、かなり前の状態がそのまま残っているような感じがすごくしたんですね。なので、その状態で、外部の知見を入れない状態で議論をするのはすごく問題があるのではないかなというふうにも思いました。

なので、必ずその外部の知見を入れるということは、それは外さないでいただきたいというふうに思っております。その上で、スケジュールですけれども、年内に結論は出す。けれどもその条例案をつくり、パブリックコメントを得て、最終的に上程するのは3月というふうにすればいいのかなというふうに思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） いろんな御意見いただき

ましたが、1時間たちましたので、暫時休憩といたします。

午前10時57分休憩

午前11時10分再開

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 休憩を解き、会議を進めます。

それでは、皆さんからいろんな御意見いただいたので、今から決める中心の課題は、最後、議会に報告する、あるいは議会に条例をつくって上程しなければならなければ、議会に上程か議会に報告、それが一番ジ・エンドです。それをいつにするかをきょう決めていただいて、そしてそれに基づいて、その間にどういうことをやっていくかというふうにしていきたいというふうに思います。これは皆さんが、今までいただいた意見ですので、これは私の意見ということじゃなくて、今までを取りまとめたという考えであります。

じゃ、早川委員、手を挙げましたので。

○早川直彦委員 以前、市政改革の会が1月11日の協議会のときに、資料としてどうだというふうで、説明だけで資料としては却下されたんですが、準備できてますので、皆さんが配付してよろしいってなれば、配付して、改革の会がそのときに口で説明したやつ、その一番簡素化した表がついてますので、配付していただければしていただきたいと思うんですけど。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 諮っていただきたいということですね。

（はいの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） じゃ、お諮りいたします。今、早川委員のほうから、以前口頭でも申し上げたけども、スケジュールが載ってるけども、それを配付していいかということですが、皆さんどうですか。要りますか、要りませんか。

○郷右近 修委員 案であっても、参考になるものがあれば配付していただいてもいいんじゃないかなと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 配付していただいてもよろしいですか。

（参考配付だねの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それじゃ、参考配付といたします。

(参考資料配付)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 参考配付していただきました。

これを見ますと、12月議会に条例が必要な場合は、条例案の上程というふうになっております。中身については今後皆さんと検討していくわけですが、ひとつ参考資料として見ていただきたいというふうに思います。

それでは、数分間、最大3分間見てください。

(説明だけ簡単にの声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） じゃ、簡単に説明をしていただきます。

山盛委員。

○山盛さちえ委員 1、2になってまして、1のほうは資料追加についてなので、それはもう済んだことで、2で、1月から12月までのタイムテーブルが月だけで書いてありますね。それで、もう今、4月ですが、4月に議会報告会開催、市民との意見交換会ということがありましたが、これは7月9日に変更になっていますので、7月のところにこれを入れていただければと思います。

それで、議会の年間予定と特別委員会の日程（案）、それから備考という3つの大きな枠でつくられていて、これを見ると、講演会などはやっぱりこの春の4月、5月、6月あたりで開催してはどうかというような案になっていましたね。秋、10月、11月ぐらいには、もう定数や報酬の案について議会と市民がしっかり意見交換をして煮詰めていくという、最終的な案をここで固めるというようなそんな感じで、12月に条例案提案ということになっていました。その春にやる講演会や学習会が、今の話だとちょっと無理だということになると、7、8、9のところと差しかわるというか、そちらに移行するということがないか難しいのかなというような感じです。その間に議会があつたり、子ども議会が8月にあつたりということで、議会の日程とあわせて、可能なタイミングをここで決めていただければと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それでは、この参考資料ですが、これについての質問がございましたらお願いします。

毛受委員。

○毛受明宏委員 今、御説明というかありましたけど、7月9日に今、正副委員長会のほうでもんではいるんですけど、広聴会ということで開催されますので、その中でもこの7項目の中の1つか2つはひっかかってくることができるんじゃないかなと思いますので、

前身という意味ではその辺を考えていいんじゃないかなと、まだ内容は決定してませんので。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） せっかくの参考資料ですので、質問がありましたら受け付けます。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） では、質問はないということで、これは、この委員会の共有した資料ということではありませんので、参考資料ということでひとつよろしくお願いたします。

それでは、会を続けていきます。

じゃ、私のほうから、前半のことをもとに、この特別委員会を閉めるのを、議会に報告する、あるいは条例をつくる場合だったらその議会に上程する、それをいつにしたらいいかということ、皆さんと話し合いたいというふうに思います。

御意見のある方、よろしくお願いたします。

富永委員。

○富永秀一委員 最後という形にはなりますけども、こちらの今、参考のために配付していただいた資料を見ても、その春に、具体的には6月あたりに講演会を開催しようという形で進んできていたわけですけど、それができなくなって、無理なく予算を組んで開催しようと思うとやはり9月になり、また実施は、広報も考えると11月になるということも考えると、なかなか12月に上程というのは無理だろうというふうに思います。そう考えると、12月末までに結論を出し、そこからまた条例案をつくって、パブリックコメントを経て、上程はやっぱり3月というふうに、スケジュールを逆算していくとそうなるかなというふうに思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 議事を進行するためにもう一度私がコメントいたしますと、今、富永委員の申されたのは、終わりをどこにするかということが1つと、それで、中身にかかわってというふうに、中身というのは講演会にかかわってその終わりがどこになるかという視点で言われたわけですね。だから、そのことも、中身のことも考えて、講演会を後ろにしました。終わりを考えないと非常に難しいと。それで、中で、その中身について特に時期が問題になるのは、そのリミットが問題になるのは、前半から申し上げてるように講演会です。講演会をどういうふうに処理するかということによって、またジ・エンドも、この一番の終わりはどうするかということも、僕は決まってくるように思います。これは、議事の進行上の交通整理ですのでよろしく、僕の意見ではありません、交通整理です。そういうことも含めて、よろしくお願いたします。

御意見、たくさんの方、言ってくださいよ。

一色委員。

○一色美智子委員 今、このスケジュールを見せていただきまして、12月までにある程度の結論を出すとなりますと、講演会は日にち的に無理かなという気が私はしてまいりました。

前にも私申し上げましたけども、講演会をする前に、もっと議員間で討議をしなきゃいけないなって、本当に議員定数・報酬の検討ですので、まだ議員間で何の検討も議論もされてないのではないかって思います。先にこれを持ってくるべきではないかなって思います。それから市民の意見を聞く、その市民を含めって書いてありますけども、その前にやることがあるんじゃないかなというふうに私は思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） じゃ、一色議員にもう一度繰り返すと、そうすると、上程するなり議会に報告するのはいつがいいというふうにお考えでしょうか。今言われたのでいきますと。

○一色美智子委員 先々を考えますと、やはり12月議会かなという気がいたします。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ありがとうございます。

近藤善人委員。

○近藤善人委員 今、議員間討議が先ではないかということだったんですけども、私はまた違って、いろんなことをわかってないと、討議するにも討議しようがないなということも思ってます。

私、議員になる前と1期のときは、それこそ報酬と定数の削減が議会改革だなということも思っていたんですけども、今、ここでやっているうちにちょっと変わってきてまして、必ずしも定数・報酬削減が議会改革ではないなということで、本当にプロの方というか、北川さんとかそういう人の話を聞いてから、市民の方との討議とか議員間討議もやったほうが非常にいいと思いますので、スケジュール的には富永議員の意見と一緒になんですけども、講演会は必ずやっていただきたいというのが私の意見です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 一色委員。

○一色美智子委員 今、近藤善人さんの意見を聞いたんですけども、議員数、報酬のメリット、デメリットも出ておりますし、今言われた講演会の話にしましても、文献なんかで本なんかも出ておりますので、その方たちの本を読んでいただければ、その方の考え方もわかると思いますので、私はそのように思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 委員長のほうからも再度確認しておきますが、皆さんの資料が1番から7番まで行つとるわけですね、これについ

ては、他地域の報酬と定数の問題、数字がたくさん並んでいますが、皆さんがこれ、この数字を読み取れば、いろんな深い意味もまた読み取れるんじゃないかなというふうに、要するに資料としてはかなり出ているということを申し上げておきたいというふうに思います。

裕英委員。

○近藤裕英委員 まず繰り返しになると思うんですが、最終ここをどこで閉めるかというところで、私の意見はやっぱり12月ということで申し上げます。

それで、その講演会についての議論もありますけれど、講演会についても、きょうの時点で開催に向けて、きょう決するんであればあれですけど、いつまで、相手方にも失礼なので、きょうの時点でやるやらないというのは、一旦ジャッジしないと困ると思うんですよ、その富永さんもアポをとったりしてるわけですから。だから、順番としては、まず終点はどこにするのか、その後、きょうの委員会で講演についても、今、やれるやれないというというのは決めておかないと、皆さんが困るのかなと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ありがとうございます。

そのほか、どうですか。

山盛委員。

○山盛さちえ委員 12月議会に議案を上程するということですが、その初日に提案するのか最終日に提案するのかによって、20日間ぐらい、あるいは一月近く余裕が出てきますので、議員が提出するものなので最終日に提案するというのであれば、議論はその分できる、あるいはパブリックコメントの期間を12月期間中にとっておけば、12月の頭にパブコメで提案すると、そうすると、例えば9月議会と並行しながら10月の講演会の準備をしておいて、議会が終わって、10月のなるべく早い段階で講演会を行い、そこでいろんな専門的な知見も聞き、市民との意見交換もしつつ、11月丸々1カ月かけて、最終的な案を20人で練り上げるということも可能かなというふうに1つ思います。

7、8、9は、今、正副委員長会で準備いただいている広聴会もありますし、子ども議会もありますし、9月の決算議会もありますので、7、8、9はなかなか厳しいので、ここで大きなイベントを入れるのはちょっと避けたほうがいいかなというふうに思います。さらにさかのぼって、今、4月ですけども、この4、5、6のところ、今まで出た資料だとか、それからメリット、デメリットとかそういうことについて、私たちが考える限りのことについて内部で議論をしておく、そんなようなことで、ちょっと順番は変わりますけども、できるだけ分科会のほうで挙げていったメニューをきちっとこなしていくという手順を踏んでいくというのはどうかなというふうに思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 中身についてはいろいろ、まだこれから皆さんとお話をしていかにやいかんと思いますが、とりあえずきょうは本当に、最後をどこにするかということをもまず決めていっていただきたいと思いますので、そこに皆さんの頭を置いていただいて、発言をひとつよろしくお願いいたします。

いろいろ皆さん、たくさん意見をいただいておりますが、そのほか。

ふじえ委員。

○ふじえ真理子委員 現時点での、私は、お尻を12月議会では厳しいのかなというふうに、まず3月議会がお尻かなというふうに今思っています。講演会については、ぜひそれは開きたいと私も思っています。ただ、そのやった講演会、市民と一緒に話を聞いたよという形を残すためだけであれば、ぱぱぱっと周知も含めて事は進んでいくんでしょうけども、先ほど山盛委員も言われましたが、その市民も含めて一緒に学習する、深めていくということに大きな柱としてあるので、この8、9、10、ちょっとタイトかなというふうに、スピード感はもちろん必要なんですが、私は今ここで表を見させていただいて、12月というのは、講演会をぜひやりたいということがあるんですが、難しいかなというふうに思っています。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 皆さんいろいろ意見いただいて、きょうこれ、決をとってでも決めなくては前に進みませんので、やりますので、本当、皆さん御意見がありましたら、本音で、ここで申し上げて、言っただけりゃありがたいというふうに思います。

村山委員。

○村山金敏委員 先ほどタイムスケジュールなんかを正副でというような御意見もございましたけど、そうしますと、きょうここで、けつをいつにするか、その日程をちょっと出していただかないと我々もちょっと組みにくいものですから、その辺も踏まえてどんなお考えか、ちょっとお聞きしたいんですけど。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 結局、あなたの意見はいいか。あなたの意見は言わんの。

村山副委員長。

○村山金敏委員 それでは、先ほどから分科会とかいろいろ話は出ておりましたけど、分科会のほうで討議されたことは決定ではなくして、結局は特別委員会のほうに回ってきたわけですね。ですから、分科会でこうだったとか、そういったものも当然必要なんですが、ここで、協議会なり委員会でも協議されてることを主に考えて発言していただきたいかなと思いますけど。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 最大の今のこの狙いは、終わりをどこにするかということですので、その線に沿ってよろしく願いいたします。

裕英委員。

○近藤裕英委員 1点、分科会の件、私メンバーでしたので、分科会である程度の取りまとめた資料を出させてもらってますけれど、分科会ではやっぱり決しないということでここに至ってますので、そういったことは今までみなさんがこの中で議論したことで、これからもしなければいいと思います。

まずやっぱりもう今、案が2案出ている、12月議会なのか3月議会なのかと、もうほぼ意見は出尽くしてると思いますので、全員の総意というわけには多分ならないと思いますので、決めていただければと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 皆さん、よろしいでしょうか。採決で決めます。

（その前にちょっとの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 宮本委員。

○宮本英彦委員 済みません。ちょっと記憶のある方、教えてほしいんですけど、前回減らしたとき、前回、議員数を。それはいつの議会で決めたか、わかりますか。これ今、ちょっと資料見ておるんですけど。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 過去の資料を見ればわかることですが、ぱっと言える人おられますか、答えれる人。

（発言する者あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それでは、私語はやめてください。資料を見てください。今まで勉強した資料をよろしく願いします。

（発言する者あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 皆さん、それでは、私語をやめていただいて、皆さんちょっと集中してください。

採決をとりますので、よろしいですか。それでは、採決をとりますよ。

終わり、議会に報告、あるいは議案の上程するのを12月に賛成の方、挙手願います。

（賛成者挙手）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 絶対多数です。12月に決定いたします。

それでは、12月ということ決まりましたが、その日程と絡めて、先ほどから出てます、講演会をどうするかという課題が1つ。

(ちょっと先に、12月までで、先ほど意見として出た、正副委員長に中身をどうするかを、そこを確認をとってもらえますの声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) それじゃ、ちょっと訂正いたしまして、よろしいですか。

12月ということは今、決定いたしました。そうしますと、この12月までのスケジュールを検討するために、案は委員長と副委員長に任せていただいてよろしいですか。

(異議なしの声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) そうしますと、次はその案をもって皆さんで十分検討しなくてはいけませんので、協議会を開きたいと思います。協議会をいつ開くかということについては、後、行います。今は委員会の最中ですので、後、行いますのでよろしくお願いいたします。

そして、12月までの日程をつくる関係上、一番大きな割合時間を使ってきた、講演会をどうするかという、やっぱりこれは残ってきます、問題が。だで、ここでそれを決めていただきますと、12月までに講演会をやったらこういうふうになる、講演会をやらなかったらそれにかわってこうなるとか、いろんな案をつくり上げることが割合としやすいかなというふうに思いますので、講演会をどうするかということを決めていただきたいんだが、皆さん、どうでしょうか。御異議ありませんか。講演会をどうするかということ。

近藤郁子委員。

○近藤郁子委員 先ほど一色委員がおっしゃったように、議員の中でまず議論をすべきだというふうに私は思っています。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 講演会も含めて。

○一色美智子委員 講演会をやるかやらないかよりも、もっと先に、議員間でどうしたいのか、議会としてこうなんだ、議員としてどうなんだ、そこを本当に意見を深めないで、今はみんな、意見を持ってるのか持ってないのか、減らしたほうがいいのか、ふやしていいのかというのが、何も出てないですよね。議会としてどうするんだ、議員としてどうするのかという、講演会を決めて結論を出すのではなくて、どうするのかというのを本当に今決めなきゃならないんじゃないかなって気がいたします。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 後藤委員。

○後藤 学委員 結論を出すまでに、前に、私は、大事なことは議員と市民がしっかり考えるということ、これは講演会というような形になっていくかなと思うんですけど、そのステップと、議員と市民がしっかり考えるというステップ、それから、一般市民の意見をちゃんと聞くというステップですね、この2つは絶対に避けられない、それを踏まえて議

員の中で議論をしたほうが、市民がどう思っているかという意見も聞かないで、議員だけで話していても仕方がないと思うんですよね。それから、学識経験者の、そういうことを専門的に研究してみえる方がどう考えているのかという意見もやっぱり聞いたほうがいい。それは、先ほど言われたように、資料があるから、本があるから読めばいいということかもしれませんが、市民の方は読まれないですよね、そういう資料は。議員の中だけなら、自分たちで読んでそれを踏まえて話をするってことはできるかもわかりませんが、市民の皆さんにもそれは知っていただいたほうがいいと思うので、その2つのステップ、議員と市民でよく勉強し考えるということと、市民の意見をきちっと聞くという、その2つのステップをきちんとやった上で、議員の協議をして結論を出すということかなというふうに思うんですけど。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） いろんな切り込み方がありますが、ここでの議論をばっと広げてしまうんじゃないかと、割合を狭めていって、いろんなことを決めて12月を迎えるように、ひとつよろしくお願いいたします。

近藤裕英委員。

○近藤裕英委員 皆さんがおっしゃる意見は理解できますけれど、例えば講師例会について行うこと、勉強会、勉強する機会にはなる、ただ、その人にレクチャーを受けるわけじゃなくて、勉強させてもらって、あと、市民の方の御意見も拝聴して、最終的には、私たちの今の20人の議員が決定することだと思うんです。市民の総意というのも出しようがないし、講師にもいろんなカラーがあるかもしれないし。だから、レクチャーというわけではないので、先ほど来申し上げてますが、今、ここで富永さんがいろいろ段取りしていただいた、講演会をするしないをこれできょうも先延ばししたら、富永さんも困るでしょうし、相手方にも失礼でしょうし、断腸というか残念ですが、一旦ここで、講演会を今のスケジュールで依頼することは難しいと思うので、今のスケジュールというのは富永さんが組んでくれた先方のあいてる日とかね、そういう。全体じゃないですよ。講演会についてのスケジュールも今はちょっとできないので、これも先ほど、12月ということで決をとられましたけれど、これもどこまでいっても個々の意見がありますので、皆さんの意見が出尽くしたのであれば、きょうの段階で、講演会をこのまま継続して持っていくのか、また一ヶ月後まで検討、結果、結論を先延ばしするのか、一旦はここで、今、企画している講演会をするしないという決をとらざるを得ないと思うんですが、いかがでしょうか。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） どうでしょうか。今、近藤裕英委員の意見について、1つの流れの中で申されたわけですが、どうでしょうか。

富永委員。

○富永秀一委員 今の御意見だと、要するに、今回の6、7、8月で考えていた講演会については無理ですよという話で、これは決をとるまでもなく、ここでやるということが決まらない限りはできないことなので、これはもう解除ということで、特に決をとるまでもなく、もうそれは決まることだというふうに思いますけれども。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それでは、確認します。6、7、8で従来私たちが協議会で十分話し合ってきたところの、講演会の進め方、内容については、ここでもうなしということである。

（7、8月はこの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 7、8……。

（だから、12月にするのかこの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） だから、前だったら、7、8の間だったか、6、7、8。そのことについてはもうなしということによろしいですか。

（ちょっと待ってくださいこの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 村山委員。

○村山金敏委員 講演会ですけど、そこまで無理して今回、この問題に絡めてやる必要はないじゃないか、時を置いてまたそういった講師を呼んで、改めて補正なりしっかりと組んでやるという方法もありますので、私はもうこの委員会で講演というのはなしでよろしいんじゃないかと考えております。それよりも、先ほど一色委員が言われた、議員の身分に関することでもありますので、議員間でしっかりと討議して結論を出す、これが最善の方法かなと思っております。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 今、講演会のこと問題になりまして、従来検討してきたのはもうなしと、ですが、それじゃ、その後の問題はどうかということがまだちょっと残ってきますので、それをどうするかということなんですが、そこも含めて、今の村山副委員長のほうは、この特別委員会としては講演会はなしという、そういう視点で今言われたということで、確認ですがいいですか。

○村山金敏委員 それでいいです。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 山盛委員。

○山盛さちえ委員 今の御意見に反論することになるんですが、私たちが今考えている定数、報酬は、議員の身分を考えているのではなくて、議会制民主主義とか自治とか、そういうもう少し大きな枠の中で、議会がどうあるべきか、議員の役割は何なのかということをはきちっと意識して定数を決めていくということだと私は捉えています。なので、講演会は絶対必要だと思います。

ただ、後藤委員が提案されたようにというか、分科会で考えてきたときのように、講演会をやって市民の意見を聞いて、それをもとに私たちがしっかり議論していくというのは、タイムテーブル的に非常に難しくなってきたので、その中でどの位置に置くかということは今考える必要は出てきましたが、私はやっぱり講演会はやっておくべきだと思います。条例を提案して、可決か何かわからないですが、議会決定してしまってから時期を見てというのは、そんな時期はもうないので、やるなら定数を提案する前にやるのが本来だろうというふうに考えます。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） まとめますと、講演会については、7、8、従来検討してきたものについてはなしということですが、まだその後の12月までの最後の締めまでの期間の中でのどうするかという課題は、今の段階では残ってしまいました。そこで、それも含めて賛成、反対という今意見がありました。

そのことを含めて、きょう決をとってしまうのか、それとも12月までのプロセスをつくる中で、その後の講演会についてはまた考えていくのか、やるかやらんかも含めてですよ、考えていくのか、どちらかしかないと思いますが、いかが取り計らったらよろしいでしょうか。

裕英委員。

○近藤裕英委員 今、企画していただいた分については、もちろん御本人も、もう無理でしょうということで、だからそれについて、はっきり言うと特別委員会、委員会ですので、今の企画については、賛否をとってでもはっきりしておくべき、全員が異議なしでという雰囲気ではありますが、きちっと賛否をとられるべきで、あと、勉強会、講演会については、やらないというスタンスではなくて、ひょっとしたら政務活動費も使わずに、私個人的には補正を組んでまではという意見を申し上げましたけど、ほかに方法があるかもしれませんので、講演会について、やるやらないを別に議決する必要はないと思います。

今、富永委員が出された案については、このきょうの段階で、断念するかしないかはきちっと決をとるべきだと思いますけど。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） わかりました。ありがとうございました。

三浦委員、先ほど手を挙げましたが。

○三浦桂司委員 講演会の部分ですけど、謝礼の問題がまだ片づいておりませんし、仮に呼んだとして、費用対効果、何名の市民が来るのかとか皆さん心配されて、ある程度市民との合意形成をとることは必要だと思いますけども、これが本当に、議員が他力本願ではなく自分の意見を言うという、今議論を聞いていますと、意見がなかなか合いませんので、

講演会をやるのかやらないのかというのをこのタイムテーブルの中で決めていただきたい
と思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それじゃ、講演会について、講演会ですよ、採決をとって、今まで富永委員が提案しておった内容については否決するよということで採決をとってということですので、確認のために採決をとらせていただきます。さっき大体御異議なしというあれがありましたけども、採決をとります。

それじゃ、富永議員が提案してました、7、8を中心とした講演会についてはなしということ……。

（7、8だけ。6、7、8の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 6、7、8か。

6、7、8での問題についてはなしということで、賛成の方の挙手を願います。

（発言する者あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 賛成というか、何と言うんだ。

（できないというだけの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 全会一致です。言葉はちよっと適格じゃなかったかもしれませんが、全会一致でやりません。

その後はどうするかという、講演会については、今、反対、村山委員が反対、三浦委員が反対、それから……。

（なくしてしまうじゃないですよ。ここの委員会から離れてやってもいいんじゃないかということ……の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） この委員会です。やることに賛成という意見がございましたが、きょうそのことについて、決着しにゃいけませんか。

郷右近委員。

○郷右近 修委員 一連の12月までのスケジュールの中でも、案、終結の案、条例の案なりが出る段階で、パブリックコメントのようなことも含めて市民の方の意見もそこで寄せるということだと思うので、それに関して言うならば、議員はいいんですけど、その市民の方の判断のための機会を保障するという観点から、何らかの講演会は持つべきなんじゃないかなというふうに考えています。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 先ほど副委員長のほうからも提案がありました、12月までのタイムスケ

ジュールを、あとたたき台という形で、一回正副で組んでいただいて、そこにどういうふうに組み込めるのか、それを組み込んだものを、例えば、じゃ、次回の協議会ないし何かで、方法としてどういうことがあるのか、先ほど近藤裕英議員もおっしゃいましたように、もしかしたら補正を組まない方法も何か出てくるかもしれない、まだこれから議論を重ねることによって。

開催することに関しまして、一応やぶさかではない意見も持っていますので、なので、そういう面では、そういった方法をとられてみるのはどうかなというふうに思いますが。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 開催することに賛成、反対、折衷案いろいろありました。ありましたが、ここで決めるのはちょっとと思いますので、委員長として。次の協議会で十分練って決めたいというふうに思います。

その場合に、協議会の日程等決めなくてははいけません、その場合はこの委員会じゃなくて、委員会は離れたところで決めたいと思いますので、委員会としてはきょうはここで閉めたいと思いますが、どうでしょうか。

（異議なしの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 富永委員、手を挙げましたので。

○富永秀一委員 先ほど副委員長が、もう講演会は開催しないでいいという発言を明言された上で、スケジュールを任せるとなると、それはもう講演会抜きスケジュールになるというふうに思いますが、それでは困ると思います。講演会は開催するんだという意見も少なからずあるわけですから、それを省いた形での計画を出されても、それはのめません。ですから、一任というわけにはやっぱりいけないと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） わかりました。

○富永秀一委員 その上で、先ほど裕英議員がおっしゃったような、私は補正を当然組んでやるべきだとは思っていますが、そうでない方法もあるにはあります。当然その会費を取ってやるという方法もあるわけで、500円なり1,000円なりの。そういう方法もあるわけですから、全く講演会の開催を排除した計画は、出さないという、それはできるだけ入れるという方向で考えてもらえるのであればいいですけども、それは講演会、もう頭から否定したプランを出されても、それはのめません。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 村山委員。

○村山金敏委員 先ほどちょっと発言いたしましたけど、先ほどの場合は12月までにというあれでしたけど、今の採決で6、7、8についてはということでありましたので、それを念頭に置いてスケジュールは組んでいくつもりです。ですから、これ、スケジュールを

組むについては正副にお任せということでありまして、皆様方から多少は、多少とかそれなりの御意見は拝聴して、スケジュールを組んでいきますので、そこまで考えられなくてもよろしいかなと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 申し上げておきますけど、決定権は皆さんにありますからね。私、委員長が決定するわけじゃありませんので、その案を検討していただく、つけ足すなり減らすなりであったっていいと思いますけど、よろしく願いいたします。

（講演会を入れるんだったらいいんですけどの声あり）

○村山金敏委員 入れるというのはやっぱり個人の意見だから、皆様方の……。

（じゃ、2案つくってくださいの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 早川委員。手短に。

○早川直彦委員 日程的に入れれるものと入れてないものというふうなものが出てくるといことなんですかね。その最低2案というふうなことなんでしょうか。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ちょっと待ちや、いい。

議論の進め方として、今、皆さんが発言してるのは、委員長と副委員長でたたき台をつくらうと、たたき台をこうするこうするって制約されちゃたたき台になりませんので、つくってくださいって僕は反対に言いたいですが、どうでしょう。

鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 おっしゃるとおりで、あくまで案なわけですので、それを我々が協議会ないし特別委員会で話をして、もしも、じゃ、講演会がそのスケジュールから抜けてれば、ここに入れれるんじゃないかとかという話も当然次回にできるわけなので、それはある程度たたき台は一任してつくっていただく必要があるのかなというふうに思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） なるだけ皆さんの御要望を聞きながら。

宮本委員。

○宮本英彦委員 たたき台はそれでいいんですけど、先ほどから出てる補正予算の件ですけど、議会活動で、常任委員会とか特別委員会という、このきちっとした正規の委員会が活動する予算について、活動費についてはこれは補正予算、本来正規の予算でいいんだけど、組めない場合は、やっぱり補正予算で議会活動費等の中で処理すべきだと思います。だから、講演会をやるならそれは補正で組む、あるいは、ここでそのほかに広聴会とかそういうのをやるのであるなら、そこの会場費とかチラシとか案内は要りますので、そういうのもやっぱり補正予算の中で組んでいくべきだと。それは、スケジュールをつくる中で

出てくる予算ではじき出しゃええと思います。それは補正で組むべきだと私は思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 皆さんからいろんな御意見いただきました。

それでは、これできょうの委員会は閉じて、その後にちょっと協議会でもって次の協議会の日程を決めたいと思いますので、御異議ありませんか。

（異議なしの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それでは、きょうの委員会はここまでといたします。御苦労さまでした。

午前 11 時 53 分閉会